

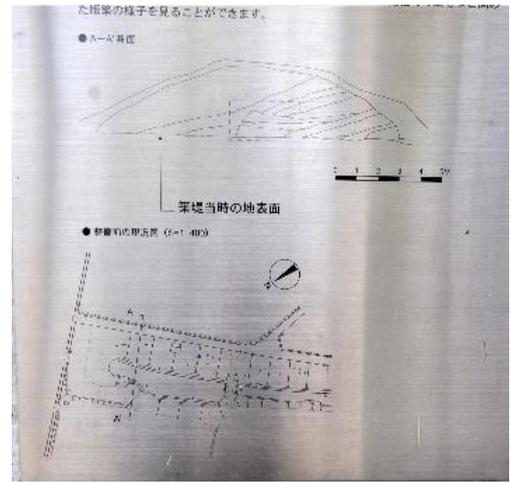
八王子千人同心日光往還ウォーク参考資料

石田堤



これが「石田堤」の一部であり、鴻巣市の石田堤史跡公園である。上越新幹線にぶつかる手前に階段があり、堤の上部に登ることが出来る。





## 石田堤



天正18年(1590)、石田三成が忍城を水攻めにすべく、元荒川の自然堤防の一部等を利用して築いた堤が石田堤です。この時、三成の城を落とす作戦は、城の周囲に14km(28km、4kmとする説もあり)もの堤を築き、荒川と利根川の水を城内に流し込む水攻めでした。この地域に点在していた古墳を取り崩しその土などを利用した自然堤防を補強して繋ぎ短期間で堤を築いていったと推測されています。一説には堤をわずか5日間で築いたともいわれていますが、当時の記録から忍城攻めが始まって約1か月後の7月前半のも堤の補強等を行われていたことが伺えます。突貫工事で築いた堤を水攻めしながら補強していたようです。

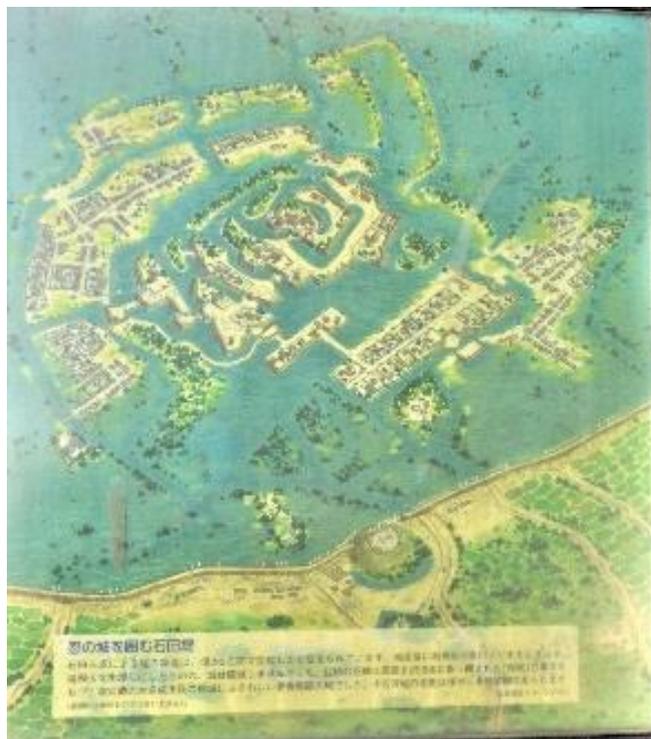
三成は、6月初旬頃に布陣して丸墓山の上に立ち、その地形から忍城を取り囲むように堤を築いて利根川、荒川の水を引き込み城を水攻めにすることを決めたと伝えられていますが、しかしながら実際に

は秀吉の強い意向で水攻めは行われたと推測されます。

結果的には、豪雨により一番低地の堤根の忍川辺りで堤が決壊したとか、雨の日に夜陰にまぎれて城から水泳に熟達した者が決死の覚悟で三成本陣前の堤を破壊したため、濁流が彼らを直撃し、死者も出て大混乱に陥ったとか、水攻めは、忍城に直接的なダメージを与えられず失敗したとされています。

堤の断面見学施設や史跡公園の見取図、上越新幹線ガード下には各種説明板がある。

### 忍の城を囲む石田堤



石田三成による堤の築造は僅か5日間で完成したと伝えられています。完成後に利根川・荒川より水を引き込み、城周囲を水浸しにしたものの、城は開城しませんでした。

往時の忍城は周囲を沢沼地に取り囲まれた「浮城」の異名をもつ、北武蔵の大名成田氏の居城にふさわしい要害堅固の城でした。その浮城の面影は僅かに水城公園に見られます。(図はイメージです)

### 三成本陣から見る忍の城

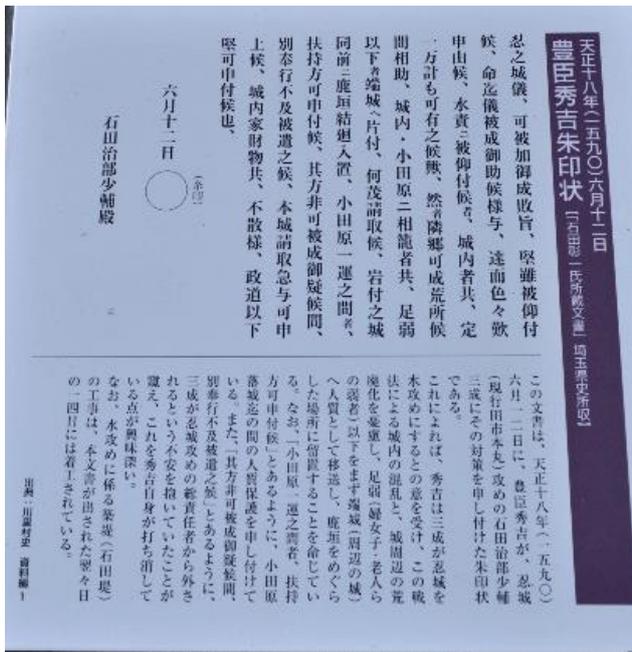


城周辺を水浸しにしたものの、城は落ちる気配はありませんでした。今、さきたま古墳群に残る「丸墓山古墳」が当時の石田三成本陣跡と言われています。また南から古墳に至る小高い道は、石田堤と言われています。当時ここからは、水に浮かぶような忍の城が見えたことと思います。(図はイメージ)

堤の決壊



多くの労力をかけた水攻めは、城に対し決定的な効果は上げなかったようですが、城中に籠ったと伝えられる百姓・町人・法師・神官・婦女子らには、日々増える水を見ながら動揺もあったと思います。しかし、増水中に台風に襲われ、逆に石田勢を押し流してしまったと伝えられる一面もあります。この場所が、本公園北側の忍川にかかる「堀切橋」です。(図はイメージ)

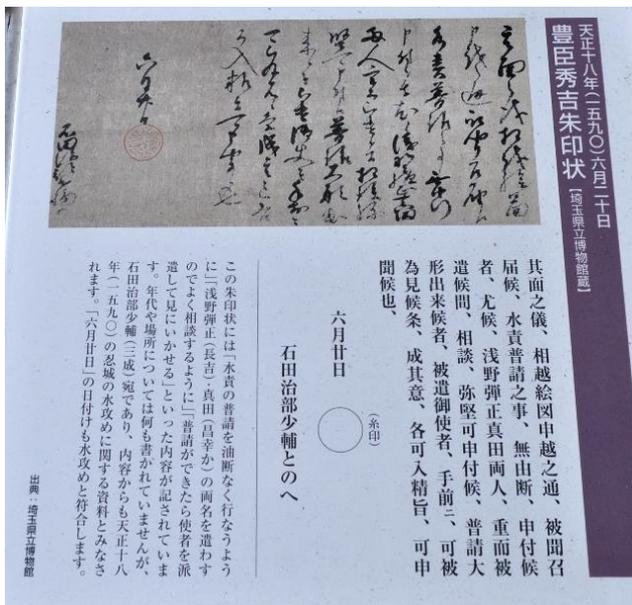


天正十八年（1590）六月十二日 豊臣秀吉朱印状

この文書は、天正十八年（1590）六月十二日に豊臣秀吉が、忍城（現行田市本丸）攻めの石田治部少輔三成にその対策を申し付けた朱印状である。

これによれば、秀吉は三成が水攻めにするとの意を受け、この戦法による城内の混乱と、城周辺の荒廃化による城内の混乱と、城周辺の荒廃化を憂慮し、足弱（婦女子・老人らの弱者）以下をまず端城（周辺の城）に人質として移送し、鹿垣をめぐる場所に留置することを命じている。なお、「小田原一運之間者、扶持方可申付候」とあるように、小田原落城迄の間の人質保護を申し付けている。

また、「其方非可御疑候間、別奉行不及被遣之候」とあるように、三成が忍城攻めの総責任者から外されるという不安を抱いていたことが窺え、これを秀吉自身が打ち消している点が興味深い。なお、水攻めに係る築城（石田堤）の工事は、本文書が出された翌々日の十四日に着工されている。



天正十八年（1590）六月二十日豊臣秀吉朱印状

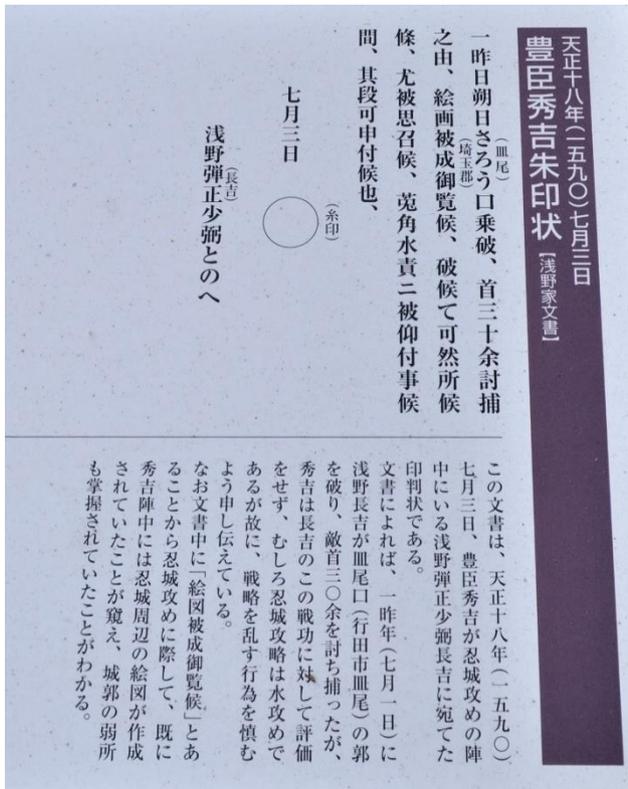
この朱印状には「水責の普請を油断なく行うように」「浅野弾正（長吉）・真田（昌幸か）の両名を遣わすのでよく相談するように」「普請ができれば使者を派遣して見に行かせる」といった内容が記されています。年代や場所については何も書かれていませんが、石田治部少輔（三成）宛であり、内容からも天正十八年（1590）の忍城の水攻めに関する資料とみなされます。「六月廿日」の日付けも水攻めと符合します。

天正十八年（1590）七月三日豊臣秀吉朱印状  
（浅野家文書）

この文書は、天正十八年（1590）七月三日、豊臣秀吉が忍城攻めの陣中にある浅野弾正少弼長吉に宛てた朱印状である。

文書によれば、一昨年（七月一日）に浅野長吉が皿尾口（行田市皿尾）の郭を破り、敵首三〇余を打ち捕ったが、秀吉は長吉のこの戦功に対して評価せず、むしろ忍城攻略は水攻めであるが故に、戦略を乱す行為を慎むよう申し伝えている。

なお、文書中に「絵図被成御覧候」とあることから忍城攻めに際して、既に秀吉陣中には忍城周囲の絵図が作成されていたことが窺え、城郭の弱点も掌握されていたことがわかる。

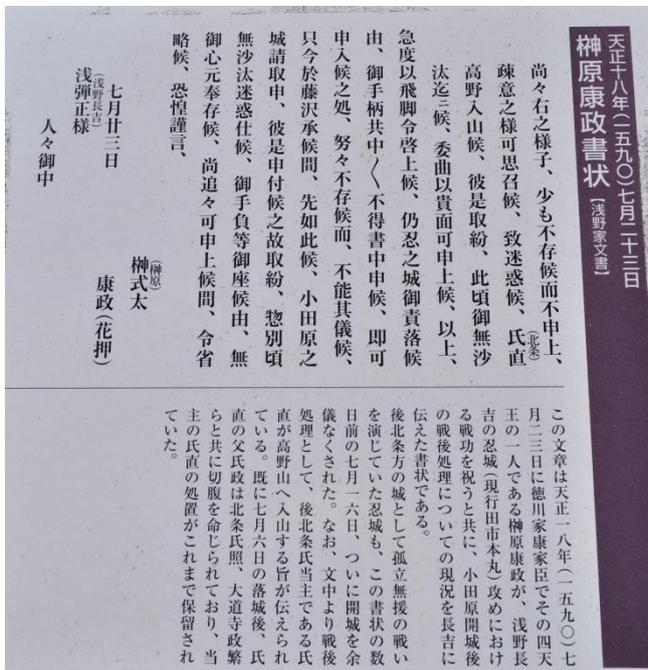


この文書は、天正十八年（一九〇）七月三日、豊臣秀吉が忍城攻めの陣中にある浅野弾正少弼長吉に宛てた朱印状である。文書によれば、一昨年（七月一日）に浅野長吉が皿尾口（行田市皿尾）の郭を破り、敵首三〇余を打ち捕ったが、秀吉は長吉のこの戦功に於いて評価をせず、むしろ忍城攻略は水攻めであるが故に、戦略を乱す行為を慎むよう申し伝えている。なお文書中に「絵図被成御覧候」とあることから忍城攻めに際して、既に秀吉陣中には忍城周辺の絵図が作成されていたことが窺え、城郭の弱点も掌握されていたことがわかる。

天正十八年（1590）七月二十三日榊原康政書状  
（浅野家文書）

この文章は天正十八年（1590）七月二十三日に徳川家康家臣でその四天王の一人である榊原康政が、浅野長吉の忍城（現行田市本丸）攻めにおける戦功を祝うと共に、小田原開城後の戦後処理についての現況を長吉に伝えた書状である。

後北条方の城として孤立無援の戦いを演じていた忍城も、この書状の数日前の七月十六日、ついに開城を余儀なくされた。なお、文中より戦後処理として、後北条氏当主である氏直が高野山へ入山する旨が伝えられている。既に七月六日の落城後、氏直の父氏政は北条氏照・大道寺政繁と共に切腹を命じられており、当主の氏直の処置がこ



この文章は天正十八年（一九〇）七月二十三日に徳川家康家臣でその四天王の一人である榊原康政が、浅野長吉の忍城（現行田市本丸）攻めにおける戦功を祝うと共に、小田原開城後の戦後処理についての現況を長吉に伝えた書状である。後北条方の城として孤立無援の戦いを演じていた忍城も、この書状の数日前の七月十六日、ついに開城を余儀なくされた。なお、文中より戦後処理として、後北条氏当主である氏直が高野山へ入山する旨が伝えられている。既に七月六日の落城後、氏直の父氏政は北条氏照・大道寺政繁と共に切腹を命じられており、当主の氏直の処置がこれまで保留されていた。

これまで保留されていた。



上越新幹線を潜ると石田堤史跡公園の続きがあり忍川まで続く。中に天正18年頃の関東の様子」説明板があるあずまやと見張場がある。



公園の東の出口に道標がある。「右 日光 忍」「左 江戸」とある。



忍川に架かる「堀切橋」があり、渡ると行田市になる。(ここまで約700m)



土木學會選奨土木遺産「堀切橋」

竣工 昭和8年

構造形式 鉄筋コンクリート桁橋

選定理由

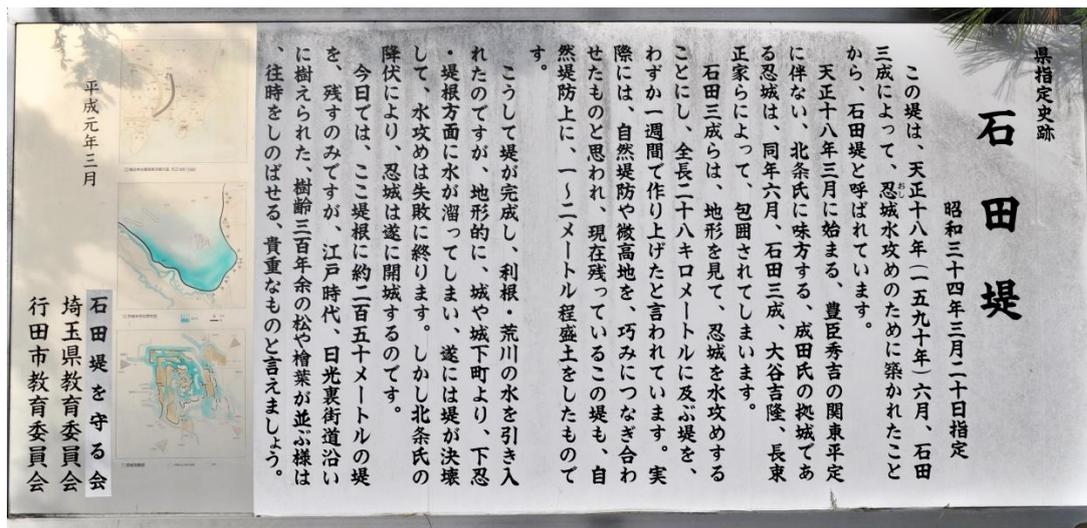
埼玉県内で8ヶ所目の土木学会選奨土木遺産となる「堀切橋」は、親柱頂部に尖頭半球が施され高欄

は三角形等の空間がある。これらの表面に幾何学模様が刻まれており、野外アート風の橋である貴重な土木遺産であることが評価され、認定されたものです。

なお、堀切橋の名前は、戦国時代に石田三成が忍城を水攻めにした際、この付近で石田堤が破堤したことが由来とされる。



堀切橋から忍川と道路の間に道に沿って松並木の堤が250m程続く。これも石田堤で、埼玉県指定史跡である。途中に「石田堤」の説明板があり、裏面に「忍城攻め年表」と「石田堤碑文」が書かれている。先に進むと「石田堤碑」があり、駐車場がある「石田堤歴史の広場」に『石田堤の並木』『石田堤』『石田堤と忍城水攻め』等の解説板がある。



# 忍城攻め年表

大正十八年

- 二月十二日 成田氏長小田原出陣
- 三月二十八日 山中城落城
- 四月三日 小田原城包圍成る
- 四月十六日 松山城開城
- 五月二十二日 岩付城開城
- 六月四日 館林城開城
- 六月六日 忍城籠城始まる
- 六月六日 忍城包圍成る
- 六月七日 水攻め築堤に着手
- 忍城代成田泰季病死、成田長親城代となる
- 血尾口出張攻撃を撃退、同夜引払う
- 六月十一日 忍城総攻撃を撃退す
- 六月十二日 佐間口寄手を夜襲し大勝
- 六月十三日 長束正家の陣屋出火
- 水攻め築堤竣工
- 六月十四日 鉢形城開城
- 六月十六日 水攻め築堤破壊
- 濁水石田三成本陣を襲う
- 六月二十日 降伏勧告の密書成田氏長に届く
- 岩付城攻略の諸將忍城包圍軍に助勢
- 成田氏長降伏
- 六月二十七日 石田三成手勢を率いて単独攻撃に出で敗退
- 長野口破れ寄手大手に押寄せ、甲斐姫出陣撃退
- 佐間口の寄手を破る
- 七月一日 浅野長政軍血尾口に突入、忍城籠城軍三十余人を討ち取る
- 七月五日 忍城籠城軍城外に出て浅野長政軍と交戦、双方に死傷者多数
- 七月六日 小田原城開城
- 七月七日 豊臣秀吉よりの上使忍城に着く
- 七月十四日 忍城開城

森尾津一作成「忍籠城日誌」を改編

## 石田堤碑

凡そ耳目鼻口の心志を感動せしむるや目を最と為す。事の口碑に存するは物の目に存するに如かざる也。汗河の大堤は後の王公をして驕奢を警め、西湖の蘇堤は後の士庶をして風雅を慕わしむ。聞くならず、当初天正十八年庚寅、豊公東征し相模に軍するや、石田三成等を遣わして忍城を攻めしむ。三成旧堤に困りて長圍を築き、利荒の二水を引きて之に灌ぎしも遂に抜く能わずして去る。後來堤漸く圯廢し、纔に茲の土を存するのみと云う。蓋し当時民居稀少にして邑を成さざることを知る可し。乃ち、今、開墾して地を尽し、生齒蕃育す。其れ誰の賜ぞや。徳沢決う所感戴せざる可からざる也。増田豊純、堤の湮没に就き口碑も従って亡ぶるを慮り、石を樹てて之を表す。其意蓋し永く邑民をして之を望み徳沢を感戴し、且つ多士をして目撃して、乱を治に戒めんと欲すれば也。世の矜伐功を勅し、虚しく諛墓を設くるものと殊に異なる。静軒居士喜んで誌す。天正庚寅、今茲慶応二年丙寅を距ること凡そ二百七十七年なり。

秋巖原翬書丹 鈴木群雀鐫



行田市指定文化財

## 石田堤の並木

昭和34年3月19日指定

天正18年(1590)6月に石田三成率いる豊臣秀吉軍が忍城水攻めのために築いた石田堤は、同年7月14日に忍城が開城するとその役割を終えましたが、ここ堤根地区ではその後も堤は取り壊されずに残っていました。

江戸時代になり、徳川家康によって五街道の整備が始められ、その他の支路も脇往環として整備が進められました。堤根の石田堤沿いの館林道も中山道と日光例幣使街道を結ぶ日光脇往環として整備され、堤の上には黒松が植えられて、街道沿いに松並木が形成されました。

松並木は、暑い夏には旅人に緑陰を与え、冬は吹きつける風や雪から旅人を守りました。また、風雨や日差しから道そのものを守る役割も果たしていました。

明治時代以降も松並木は残され、昭和40年代には補植されて、新たに桜も植えられました。

残念ながら害虫の被害もあって、黒松は徐々に欠け、現在では江戸時代から残る松は1本も無くなってしまいましたが、補植された松が育ち、並木は今も往時の面影を留めています。

平成27年3月

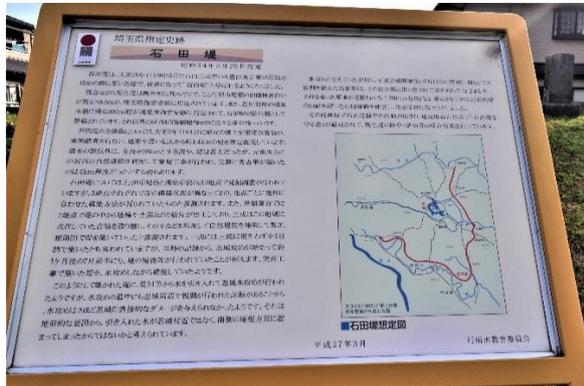
行田市教育委員会



### 埼玉県指定史跡 石田堤 昭和34年3月20日指定

石田堤は天正18年(1590)6月に石田三成率いる豊臣秀吉軍が忍城水攻めの際に築いた堤で、後世になって“石田堤”と呼ばれるようになりました。

残念ながら現在堤は断片的に残るだけで、ここ行田市堤根の旧館林道沿いに残る282mが、埼玉県指定史跡に指定されています。また、忍川対岸の鴻巣市袋に残る300m程が鴻巣市指定史跡に指定されていて、石田堤史跡公園として整備されています。それ以外にも行田市堤根地区ほかに点々と堤が残っています。



石田堤の全体像については、大正2年（1913）に地元の郷土史家清水雪翁が、実地踏査を行い、地形や言い伝えから約14kmの堤を推定復元しています。清水の説以外に、全長28kmとする説や、堤は長大だったが、元荒川などの河川の自然堤防を利用して築堤工事が行われ、実際に秀吉軍が築いたのは4km程度だったとする説もあります。

石田堤については、行田市堤根と鴻巣市袋の計3地点で発掘調査が行われていますが、3地点それぞれで堤の構築状況が異なっており、地点ごとに地形にあわせた構築方法が採られていたものと推測されます。また、発掘調査では2地点で堤の中から埴輪や土器などの破片が出土しており、三成はこの地域に点在していた古墳を取り崩し、その土などを利用して自然堤防を補強して繋ぎ、短期間で堤を築いていったと推測されます。一説には三成は堤をわずか5日間で築いたとも言われていますが、当時の記録から、忍城攻めが始まって約1ヶ月後の7月前半のも、堤の補強等が行われていたことが伺えます。突貫工事で築いた堤を、水攻めしながら補強していたようです。

このようにして築かれた堤に、荒川等から水を引き入れて忍城水攻めが行われたようですが、水攻めの最中にも忍城周辺で戦闘が行われた記録があることから、水攻めはさほど忍城に直接的なダメージを与えられなかったようです。それは地形的な要因から、引き入れた水が忍城付近ではなく、南側の堤根方面に溜まってしまったからではないかと考えられています。

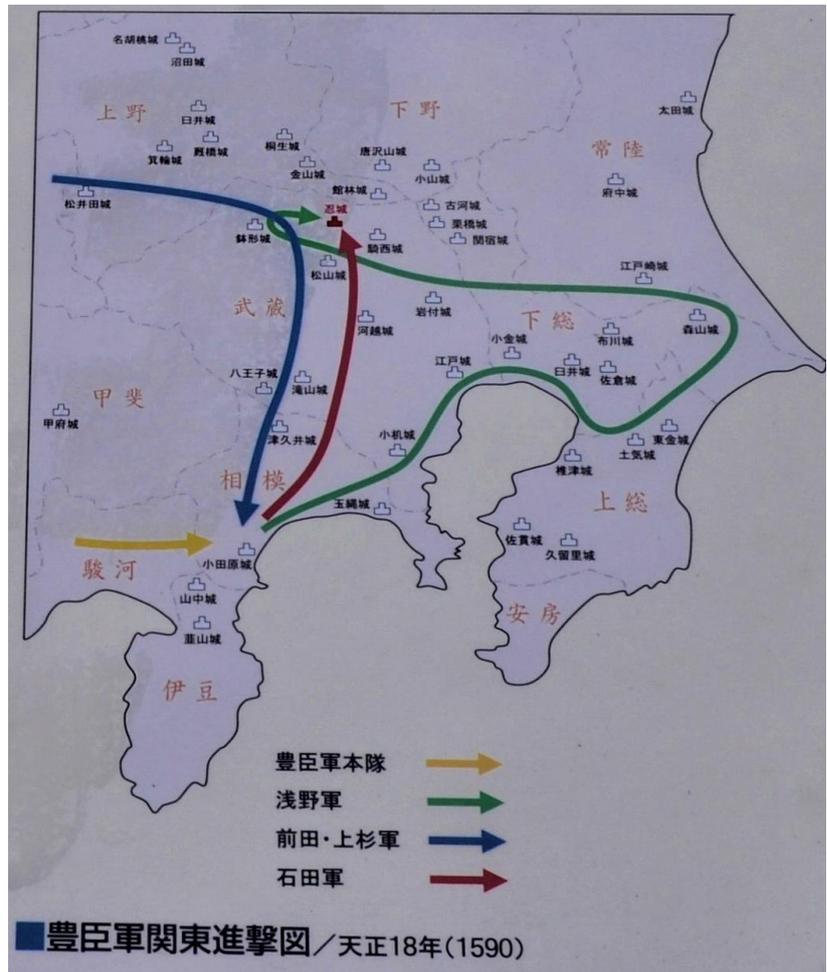
水攻めに耐えていた忍城も、小田原城開城後の7月14日に開城し、堤としての役割を終えた石田堤は、その後次第に取り崩されて姿を消して行きました。それを憂いた幕末の堤根村の名主増田五左衛門は、慶應2年（1866）に石田堤の由緒を記した石田堤碑を建立し、堤を後世に残そうとしました。

その後地域で石田堤保存の活動が始まり、地元堤根自治会で「石田堤を守る会」が結成されて、現在堤の除草・清掃等の保存活動を行っています。

平成27年3月 行田市教育委員会

### 石田堤歴史の広場 石田堤と忍城水攻め

天正17年（1589）11月、天下統一を目指す豊臣秀吉は、小田原城を本拠とする北条氏に宣戦布告し、関東の武力平定に乗り出しました。



秀吉は総勢24万とも言われる大軍を関東に派遣して、翌年4月には小田原城を包囲し、北条方の関東地方諸城を攻め落として行きました。そして6月の初めに石田三成に2万の軍勢を率いて北条氏に従う忍城を攻めるよう命じました。

三成の軍勢が忍城を攻めた時、忍城主成田氏長（うじなが）と弟の泰親（やすちか）は、将兵を率いて小田原城に入っていて、城代成田泰季（やすすえ）らが忍城の守りに当たっていました。城内に周辺の領民が逃げ込み、城に雑兵・百姓・町民・女子供らも含めて総勢2700人余りが入っていたと後世の「忍城戦記」には記されています。また、6月7日には城代成田泰季が急死し、代わって息子の成田長親が城代になったと、やはり後世の「成田記」には記されています。

三成は6月初旬頃に布陣して丸墓山の上に立ち、その地形から忍城を取り囲むように堤を築いて利根川・荒川の水を引き込み、城を水攻めにすることを決めたと伝えられています。しかしながら、実際には秀吉の強い意向で水攻めは行われたと推測されます。

秀吉は6月20日に三成に宛てた書状で、三成から送られた絵図面の内容を承諾するとともに、水攻めを油断なく行うことを申し付けています。

また、途中から忍城攻めに加わった浅野長吉が、7月1日に皿尾口に攻め込み、忍城方の兵30余りを討ち取り、それを秀吉に報告した際にも秀吉は、「それより水攻めをしっかりとやるように」と指示しています。

さらに秀吉は、7月6日に上杉景勝、前田利長らに、早々に忍城に向かい、堤を丈夫にするよう申し付けています。また、14・5日頃には岩付に向かうので、その際忍城を包囲している堤を見学するから、普請を油断なく行うようにとも命じています。

このように秀吉は忍城を水攻めすることに固執していたので、長大な堤を築くことで、自らの権力を

誇示したいと考えていたのかも知れません。

結果的に水攻めは、忍城に直接的なダメージを与えられず、「忍城戦記」「成田記」などの後世の軍記物どえは、失敗したことにされています。対照的にこうした軍記物では、史実としては定かでない忍城方の奮戦が記されており、それが伝説となって、語り継がれて行きました。

近年、忍城水攻めがいくつかの小説で題材として取り上げられ、映画化もされたことから、石田堤と忍城水攻めに対する関心が高まっています。

平成27年3月 行田市教育委員会

### 石田堤遺跡

石田堤遺跡は、ここ石田堤歴史の広場付近を中心に、石田堤に沿って堤根地区の自然堤防上に南北に細長く広がる、古墳時代・奈良～平安時代・中世の集落遺跡及び石田堤です。

このからは縄文土器が少量出土していますが、本格的に人々がくらすようになるのは、今から約1650年程前の古墳時代前期（4世紀後半頃）のようです。この説明板の北側にある工場建物建設の際に行われた発掘調査で、古墳時代前期と中期（5世紀）の方形に地面を掘り下げた地下式の竪穴住居跡各1軒、時代不明の古代の溝9条等が検出され、土師器と呼ばれる素焼きの土器などが出土しています。



発掘調査区全景



古墳時代前期の土器（土師器台付甕）出土状況



古墳時代中期の竪穴住居跡検出状況

行田市内では、古墳時代前期に水田開発が急速に進んだようで、市内各地の自然堤防上や台地上に小規模な集落が多数営まれるようになります。この遺跡の集落もそうした開拓者の小規模な集落のひとつではないかと思われます。集落はその後も古墳時代後期（5世紀末～6世紀頃）まで、断続的にこの付近で営まれ続けるようです。また、この広場の北側周辺では、古墳時代後期の埴輪が出土しており、近くに古墳が築かれた可能性も考えられています。

この遺跡から、奈良時代末～平安時代（8世紀後半前後）と中世の溝等も転出されており、石田堤が

築かれる以前から、この地域でくり返し人々が生活を営んでいたものと思われます。

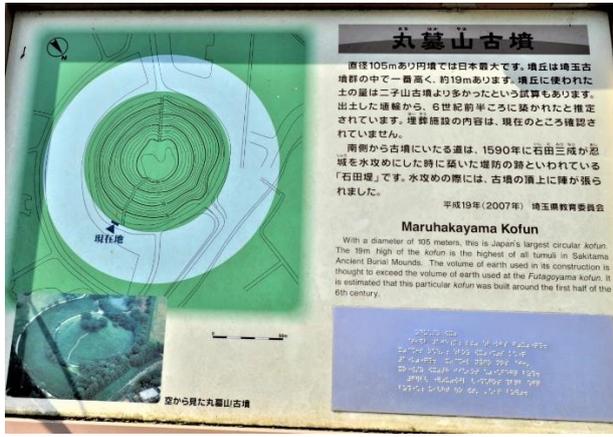
平成30年3月

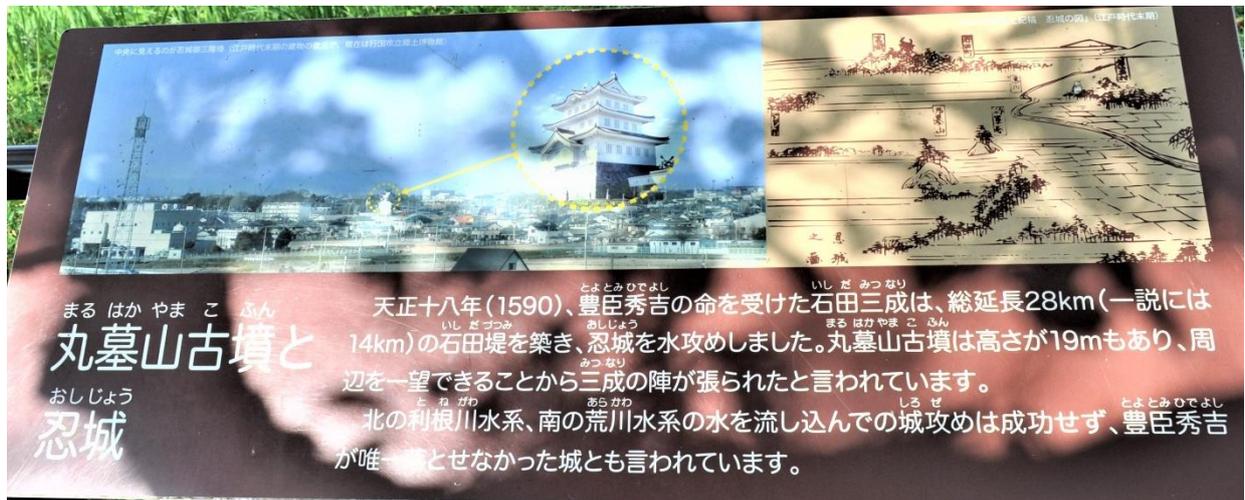
行田市教育委員会



「丸墓山古墳（まるはかやまこふん）」：日本で最大級の円墳で、墳丘径105m、墳丘高17.2m、豊臣秀吉が天下統一を進める1590年、家臣の石田三成が忍城を水攻めにする際に、忍城がよく見えるこの頂上に陣を張ったといわれています。







丸墓山古墳から南へ延びる道が「石田堤」である。

